



短歌にありがとう

日曜日の早朝、テレビをつけてみたら短歌の時間でした。

『山なんか 笑わないよと言う孫よ 勉強してごらん 亀だつて笑うよ』

今回は「笑う」がテーマで、一般の人が作って選ばれた短歌です。短歌など作ったことのない私は、この歌の説明に聞き入りました。

山笑うー春の季語
山滴るー夏の季語
山装うー秋の季語
山眠るー冬の季語

そして、亀笑うは春の季語です。と説明がありました。七十歳をすぎた私ですが、知らない事や感じ得ない事がいっぱいあった自分に気付かされました。山里生まれの私ですが、大自然の中で当たり前のように成長してきた事が、いかに幸の中にいたのかとつくづく思いました。

(浦和市/R・E)



梅雨のつゆつね

ありがとう

気象庁による、早とちり梅雨宣言が、出た直後から晴天が続いた。予報のずれに水源地の枯渇や、農業関係者をやきもきさせたようだが、何のことはない暦どりに梅雨入りしたようだ。

その雨が、降ろうが降るまいが季節がめぐり、この時期になると忘れることなく今年も、猫の額ほどの小さな庭に、アジサイの花が咲いてくれた。

先程まで、雨にしっかりと濡れて咲いていたが、何故か、この花には雨がお似合いの様である。

霧雨にけぶる中に純白から薄紫、そして薄紅へと変化していく風情からは、艶めかしさを覚える。

雨あがりの午後、さし木には頃合いと思ひ、アジサイの傍らに植えてある、沈丁花の若い枝を数本摘み、軟化した土に植えておいてから、何げなくアジサイに目をやると、大きな葉の上に、茶色の殻を付けた、でかいカタツムリがいて、目があった。

眺めていると、何処かへ向かうのか歩みは遅いが、少しずつ前進している。

そこで、退屈しのぎに声をかけた。「お前は生きてて、楽しいかい？」

「でも良かったな、日本に生まれて、フランス辺りで生まれてりや今頃、食卓の上だぜ。」

心なしか、カタツムリが頷いて見えた。「それにしても、自分の家を持って



いるんだから大したもんだ。それに比べたら家の持てないおれは、さしずめナメクジって言うところかねえ。」

その時、網戸が開いて、古女房が顔を出した。「さっきから、何をブツブツ言ってるんだい？」

「しらねえな、これが本当の、つぶやき」つてやつよ。」

梅雨の合間に、関わり合いになつた全てに感謝。

(世田谷区/H・A)

五本指の靴下に

ありがとう

ここ数年来五本指の靴下を愛用しています。健康に良いと聞いたからです。



履く時は指一本一本に丁寧に入れていきます。ですから少し時間がかかります。脱ぐ時は簡単、指の先を引っ張ればすぐに脱げます。

先日、近所の高齢者用のお風呂に行きました。いいお湯にひたつた後、脱衣所でいつもの五本指の靴下を履きました。そこへ八十代のおばあさんが近づいてきて、私の靴下に触り、「かわいいね。」

と言つてなでます。

その日は、私の姪が送ってきてくれた「ブタさん」の柄の五本指靴下です。指先は両足とも赤色です。右足の甲は上半身の顔の部分、左足は下半身のお尻とシツポだけだったブタです。なんと左右別々です。私も両足をじっくりと見ると、本

当にブタの柄がかわいく、思わず笑ってしまいます。二人で顔を見合せてニッコリします。こんなブタの絵でも人の心を癒してくれます。

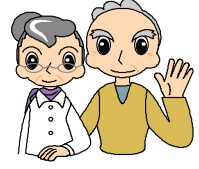
それからこのおばあさんに会うと、今まで話すこともなかったのに挨拶を交わします。おばあさんは、「今日はどんな靴下かしら？」と声をかけてきます。靴下が取り持つコミュニケーションです。

これからもずっと五本指の靴下を愛用していきます。おばあさん、また靴下を見てね。

(目黒区/H・O)

主人にありがとう

大学を卒業し、今の会社に入社して三十七年。主人が無事退職を迎えました。



「長い間、御苦労さまでした。どうでしたか？」と聞くと、「“忍”の一字。」との答え。

この言葉で主人はどんなに苦労があつても、家族のために耐えて務めあげ、やっと会社から解放されたのだと思ひました。

これからはゆつくりしていただこうと思ひましたが、根が真面目で働きの主人はすぐに仕事を探して働いていきます。いつも家族の事を思つて下さりありがとう。

主人は毎日、親に恩返しをしたいと言っています。これからは私も共に親孝行させていただきます。

(品川区/T・S)

●小さな自然に

ありがとう



私は腰痛を患って以来、足の痛みも感じるようになったので、毎日歩くようにしています。畑に行くときも自動車を使っていた私は歩くことを忘れていました。大きく深呼吸して、ゆっくりと歩き始めます。近くの広い畑にも家が2月、畑の真ん中にあつた枝は何の木だろうと思つていました。3月、小さな赤い葉が出始めました。4月、大きな葉は緑濃くつぼみがいっぱい付いています。5月、たくさんの牡丹の花が咲いていました。6月になると今、花は終わり、大きな葉が風になびいていました。「また来年も花を咲かせてください。」と私は牡丹に語りかけました。歩いてみると自然がいっぱいです。風も毎日違って吹いている事にも驚きます。これから梅雨の時期ですが、どの様な自然に逢えるか楽しみです。(さいたま市/K・M)

●こんぴらさまに

ありがとう

一度、四国のおこんぴらさまにご参拝したいなあと思つていました。すると願いが叶い、出かける当日になると天気は台風との予想にも関わらず、高松空港に着くと台風は反れ、真夏のような暑さになりました。金刀比羅宮の石段の前に立つと、

最近運動らしい運動もしていないから少し心配でしたが、折角来たのだから頑張ろうと思ひ、タクシードの中まで上がるのやめ、歩いて登ることにしました。ベテランのガイドさんが一緒だったので、休みを取りながら上手に案内してくれました。汗はかきましたがお陰さまで七百八十五段を上りきることができました。ご参拝をさせていただいていると木々の間から心地よい風が吹き、とても清々しい気持ちになりました。一休みをし、サッカー部の高校生が、始めるのにサッカークラブの高校生が、「こんにはは！」と大きな声で挨拶をしながら駆け上がり、行つたと思つたらあつという間に参拝を済ませ、私達を追い抜きながら、「ありがとうございます！」と走り去つて行きました。

「ありがとうございます！」と走り去つて行きました。すれ違ひにこんぴらさまのご利益を感じるほどの元気をいただきました。とてもありがたいこんぴら参りでした。(大田区/K・H)

●娘たちにありがとう

四年生のお姉ちゃん、近所の待ち合わせの場所に急ぎます。その箱まで連れて行ってあげたいです。ある日、妹が少し出遅れてしまいました。「お姉ちゃん、待つて！」と妹が言いました。新一年生の子たちを待たせるわけにはいかないと責任感の強いお姉ちゃん、妹の声を貸さず、「あんたがぐずぐずしてよからよ！行つてきます！」

●水道屋さん

ありがとう

と先に登校してしまいました。さあ、その後が大変で、早く追いつけるようにおにぎりを作ったのですが、「ママが早く起こしてくれないからでしょ！ママのバカ！」と泣きながら登校して行きました。朝食も取らないで可愛そうなことをさせたなあと思ひ、帰つたらすぐに謝ろうと思つていたのですが、学校から帰るとすぐに、「ただいま。ママ、朝はごめんささい。」と娘の方から先に謝つてくれました。責任感の強いお姉ちゃん、気遣いのできるやさしい妹、素直で良い子に育つてくれた二人にありがとう。(横浜市/A・S)



水道管が四十年経ち、壊れそうなので水道屋さんにお願ひしました。すると水道屋さんには水道管を見るなり、「これは工事ミスですね。」と言ふのです。ミスがあつたにも関わらず今年まで無事に使えたので、「四十年も保つてくれてありがとうございます。」それを聞いた水道屋さん、「工事ミスなのにお礼が言える奥さんはすごいですね。」と言つてくれました。「すぐに飛んで来て下さり助かりました。」「いつでもどうぞ。」水道屋さんのお陰さまで、とても快い温かなふれあいとなりました。(足立区/N・T)

【携帯 De'ショット】

今年のカレンダーが半分になる頃は、春に咲いていたグミ(茱萸)の白い花が豊かに実を結んだ。夏に実を付けるから“夏グミ”、実が渋いから“えぐみ”と……。グミの実からジャムを作れるようですが……。いつか食べてみたい。



- 携帯電話の方はQRコードから → → →
- パソコンの方は下記のURLから ↓ http://1039.seesaa.net/
- メールでのご投稿は… info@holonics.gr.jp



【編集・企画】株式会社ホロニクス総研・編集部

【原稿をお待ちしています】 本誌は北海道から沖縄まで友人知人から寄せた「あ」ということばに因り、俳句、短歌、写真、詩、俳句、短歌、写真、絵画などを掲載します。作品は編集部まで送ってください。投稿のやりかたは「ありがとうマガネ」オリジナル「ありがとうマガネ」をプレゼントさせていただきます。皆様からのご投稿をお待ちしております。また、ご自分の名前をお客様へ配布されてはいかたが近方やお集りへのご意見やご提案をお聞かせください。是非とも

